

# 『Mind Charging』

第 88 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 7 月 28 日

## ウィリアム・ヘイズリットの名言



### **The more we do, the more we can do.**

もっとやれば、もっとできる。

溢れる向上心と高いモチベーションが維持できている時にこの言葉を聞けば、さらに気持ちが入る応援メッセージとなり、気分が落ち込んでいる時に聞いてしまうと大きなプレッシャーになってしまうかもしれません。ただ、間違いなく言えるのは、やった分は必ず成果や課題として表れ、もっとできるようになるための貴重な材料になります。

常に努力を続けていくということは非常に大変な作業です。『三日坊主』という言葉に象徴されるように、必要だとわかっているけど、やり切ることがなかなか難しいと思います。では、彼の言葉は“24 時間、たった一瞬でも気を抜かずに頑張れ！”ということかと言えば、それは違うと思います。日々の努力と成果について分析し、これまでの努力に何をどのようにプラスするかを考えて取り組むことが重要です。『これを頑張ればこのような成果が見込める』ということが明確にイメージできれば、大変なことでも取り組むモチベーションに繋がります。もちろんポジティブに取り組んだ方が結果もポジティブになるはずですから、成果もきっと大きなものになるでしょう。

私がみなさんと同じ高校生だった頃を思い返してみると、今と比べて毎日の中に“発見”が多くあったと思います。それは、まだ高校生ですから知識や経験をとにかく積んでいる真っ最中ということで、見たことや聞いたことのないような物事が多かったからですが、だからこそ好奇心も旺盛だったと思います。好奇心と向上心はよく似ていると思いますし、互いに刺激し合って大きくなっていくものだと思います。もっとできるための努力をするエネルギーは、やはり自分の中にあるということですね。もっとやれたくなる心を育てていきましょう！（編集委員：入試広報室 鈴木）

ウィリアム・ヘイズリット(William Hazlitt、1778 年 4 月 10 日 - 1830 年 9 月 18 日)は、イギリスの作家、批評家、随想作家。ケント州のメイドストンでユニテリアン派の牧師の四男として生まれる。父ウィリアムは 1870 年にメイドストンの牧師を辞してアイルランドへ引退したがアメリカ独立戦争における植民地側の大義に共鳴し、家族を連れて 1783 年に独立したばかりのアメリカ合衆国に渡る。1787 年にイギリスに帰国しロンドンに滞在するが、やがてウォルワース(Walworth)へ移り、シュロップシャーのウェム(Wem)に落ち着く。(Wikipedia 参照)